

## すくわくプログラム報告書

### 1. 科学あそび

2. 図鑑を見て興味を持ったスライムやシャボン玉を使った実験、色水などをおこない、遊びの中で材料や色の配合を試し違いに気づき、友だちと共有したり工夫したりできるようにするため。

3. 令和7年6月～3月

### 4. 活動の内容

#### ◆準備したもの

・洗濯のり・絵の具・石鹼・ストロー・タッパー・泡立てネット・ワイヤーネット・計量カップ・タライ

#### ◆活動中の姿とかかわり

##### ・スライム

材料の分量を自分で測って作れるよう計量カップを用意し、図り方を伝えスライムを作った。こどもによって仕上がりの固さが違い、「水が多かったのかな?」「洗濯のり入れ過ぎたんじゃない?」などと、考えを伝え合う様子も見られた。また、スライムをストローで膨らませる実験もこどもたちが図鑑で見つけやってみたくて伝えに来たので、試してみることができた。



##### ・シャボン玉

図鑑に載っていたシャボン玉の中におもちゃを入れるという実験をしてみたいということで、試してみた。どの角度から吹いたり、どのような速さで吹いたりすればシャボン玉が割れづらいのかを何度も試し、気付いたことは友だちと共有していた。



##### ・色水遊び

3原色と白の色水のみを提供し、複数の色を混ぜることで新たな色を作ることを楽しんだ。“同じ水色でも、白と青の配分が違うだけで色味が変わる”という分量の調整を遊びの中で試し体感することができた。また、テーブル（タイヤにワイヤーネットを乗せる）や泡を用意することでジュース屋さんやアイスクリーム屋さんなどのごっこ遊びに発展し、遊びながら作りたいものに合わせた色を作ることを楽しむことができた。



5. 振り返り：遊びをおこなった後には、担任間でこどもたちの気づきや友だち同士での伝え合いについてを情報共有し、新たに必要なものを話し合い用意することができた。異年齢で遊んでいるため、各学年における援助の仕方や声のかけ方、年長児が年下児をどこまでサポートできるのかにいても共有し、大人が介入しすぎないように注意した。クラスフォトにて活動の様子を保護者にも共有し、家庭でも振り返ってもらうことができた。